

デジタル化、人口減少の波が押し寄せ、変化の大きな時代。これまでの仕事の在り方の見直しを迫られ、どう進むべきか悩む企業や働き手は少なくない。それなら「越境」してみても一。広島県立叡啓大(広島市中区)と、県立広島大学院経営管理研究科(南区)のSMOフロンティア研究所が、所属する会社や組織の枠組みを超え、外の視点に触れて学ぶ「越境学習」のきっかけとなる場をつくっている。(編集委員・平井敦子)

前例踏襲脱却 働く人向けに「越境学習」

叡啓大 事業計画や起業相談強化

叡啓大の1階にある。2021年の開学時から設けているが、25年10月に本格的な運用を始めた。利用者は毎月約150人。昨秋以前の5

倍に伸びている。

早田吉伸教授は「外の風を吹き込み、企業や自治体の『越境』を促す場なんです」と語る。叡啓大の実践教育プラットフォーム協議会を構成する自治体や広島県内の企業約200団体を対象に、事業や組織の課題解決のサポートを試みている。

事業計画の策定や起業、資金調達、人事などの多彩な知識と経験のある早田吉伸教授は「外の風を吹き込み、企業や自治体の『越境』を促す場なんです」と語る。叡啓大の実践教育プラットフォーム協議会を構成する自治体や広島県内の企業約200団体を対象に、事業や組織の課題解決のサポートを試みている。

事業計画の策定や起業、資金調達、人事などの多彩な知識と経験のある早田吉伸教授は「外の風を吹き込み、企業や自治体の『越境』を促す場なんです」と語る。叡啓大の実践教育プラットフォーム協議会を構成する自治体や広島県内の企業約200団体を対象に、事業や組織の課題解決のサポートを試みている。

県立広島大 スナック模し気軽に会話

さらにカジュアルな交流の場づくりを模索しているのが、県立広島大学院経営管理研究科(HBMS)の修了生たちが企画する「広島駅ナカクラブ構想」。

試みた。

声が上がった。

1月に3回、試行として実施。毎回午後7時から、MBA(経営修士)を取得した5人のママ、ママスターと、県内の企業の従業員や起業家たちがお酒を飲みながら語らった。延べ32人の参加者からは「多様な分野の人たちのリアルなつながりを持って視野が広がった」「仕事のヒントと励ましを得られた」などの声が上がった。

HBMSは10年間で約300人の修了生を輩出してきた。広島駅ナカクラブ構想を主催するHBMS・SMOフロンティア研究所の木谷宏教授は「職場の垣根を越え、目を合わせてつながるコミュニティは、今後のビジネスの糧になる」と期待を込める。新年度からクラブの定期的な開催を予定している。



① 叡啓大のプロジェクトワークスペース (広島市中区)
② 県立広島大学院の修了生との語り合いの場を設ける広島駅ナカクラブ構想 (広島市南区のミナモア内のカフェレストラン)